

# シーンⅣー4 伊豆沼・内沼よみがえれ在来生物プロジェクト事業

## 事業目的

ラムサール条約登録湿地である伊豆沼・内沼では、平成8年以降外来生物が急増し、ブラックバスによる在来魚の捕食や、アメリカザリガニによる沈水植物の採食により、在来生物の減少が見られます。

市民参加型の駆除活動等により外来魚の数は減少しているものの、在来生物の数は依然少ないため、多様な在来生物が生息・生育していた昭和50年代前半の自然環境を取り戻すことを目標に、在来生物を増やす取組を行います。

## 事業内容

### 1 在来生物増加促進対策

平成27年度事業費 8,000千円

- 在来魚産卵魚礁の設置
- 屋外適地での在来生物の保存系統と増殖
- 在来魚生息状況・在来植物生育状況調査
- 市民参加型在来生物の増殖技術検討

### 2 外来生物の駆除

- 電気ショッカーボート等による外来生物の駆除
- 外来生物による食害防止対策

## 事業効果

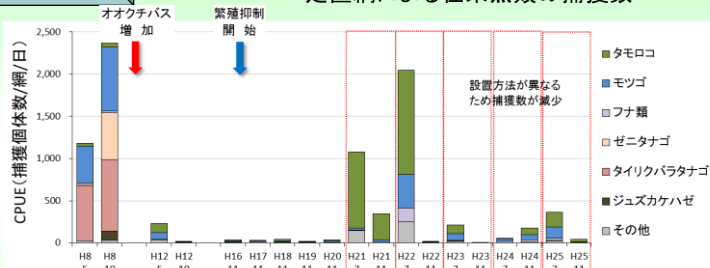
CO2削減効果	—
その他	—



駆除したブラックバス

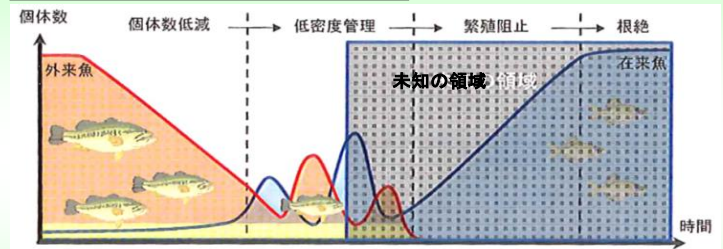
## 現状

定置網による在来魚種の捕獲数



これまでの在来魚増加対策は外来魚駆除が中心であり、在来魚の増加は自然まかせて、個体数は増減を繰り返している。

## 税導入後のイメージ



外来魚個体数の低密度管理、繁殖阻止と併せて、在来魚の棲みやすい環境を整備し、在来魚の増加を目指す。